

poco  
**ZEFIRO**

カトリック桂教会広報誌

Vol. 20

2023年

**聖母被昇天祭号**

編集・発行

カトリック桂教会広報部

**桂教会の皆さん**

**こんにちは！**

Sr. ポーリン・

フェルナンデス

キリストにおける兄弟姉妹の皆さん、桂教会の8月号に短い記事とともに自己紹介の挨拶を書くよう頼まれたことをうれしく思います。私は、「聖母の被昇天」について書こうと考えました。私たちは皆、聖母マリアを愛する者として祝福され、また、聖母の被昇天を祝う恵みを受けています。私はインド出身のシスター・ポーリン・フェルナンデスです。



《 聖母被昇天 》

1516-1518年 盛期ルネッサンス・イタリア・  
ヴェネチア派ティツィアーノ・ヴェチェッリオ作



1967年8月19日

生まれ。私はカルメル宣  
教修道女会に所属してい  
ます。

私は1992年8月30日に初誓願を立て、1998年5月3日に終生誓願を立てました。それから私は2003年に日本にきました。2013年にパウロ大塚司教様から、奈良ブロックで教区司牧協力者として活動できないかと誘われ、そこで私たちは、ローマにあるカルメル宣教修道女会の総長に、奈良ブロックで働いてほしいという、大塚司教様の要請について尋ねました。パウロ大塚司教様の要請は、私たちの総長によって受け入れられました。2013年6月1日から2023年4月8日まで、私は奈良ブロックで、司牧協力者として活動していました。今年、京丹ブロックに異動になり、2023年4月16日から司牧活動を開始しました。

一場神父様、ホルへ神父様と共に、熱心な信者の方々と一緒に、司牧協力者として働けることを、嬉しく思います。

私たち全員が神との交わり、そしてお互いとの交わりの中で、シノドスの旅を歩むことができるよう祈っております。

聖母の被昇天の日の伝統は、5世紀から6世紀にまで遡ります。教皇ピオ十二世は、1950年の使徒憲



法の中で、聖母マリアに関する教義(ドグマ)を「無原罪の母、乙女マリアは、地上の生涯を終えて、身も魂も、天の栄光に引き上げられた」と定めました。

聖母マリアは、救いの歴史の中で特別な地位を占めています。彼女は神の母として選ばれ、自然な手段ではなく、聖霊の力によって、罪なくイエスを身ごもりました。神と人間との仲介者として知られる彼女は、人間のために、イエスとの取り成しという特別な役割を、果たしています。

被昇天の祝日は、神が勝利し、愛が勝利し、命が勝利したので、大きな喜びの日です。天国はもはや私たちにとって、未知の遠く離れた領域ではありません。私たちには天国に母がいます。

マリアは、身も魂も天の栄光の中に引き上げられ、神とともに、また神のうちに、天と地の元后となります。彼女はまさに神とともに、神の中にいます。私たち一人一人に、とても近い存在なのです。彼女はいつも、私たちの声に耳を傾け、私たちに寄り添い、御子の母として、御子の力とその善良さに与かっています。

愛に満ちた母を与えてくださった主に、心からの感謝を捧げ、日々正しい道を歩むことができるよう、マリア様に祈りましょう。有難うございました！



## 復活の聖なる徹夜祭

2023年4月8日17:30~

司式：一場 修 司祭



キリスト教の最大の祭儀は、復活祭であり、復活徹夜祭は典礼上からも頂点です。

### 1部・光の祭儀

復活したキリストをろうそくに象り、復活のろうそくを中心に行われました。新しい火の祝福や、復活のろうそくの祝福と行列など、印象深い典礼が行われました。

復活のろうそくは、いうまでもなく復活されたキリストを表しています。

### 2部・ことばの祭儀

聖書朗読によって

キリストの救いの業を中心に、救いの歴史を記念することばの典礼です。

第1、第3、第7朗読が朗読されました。

### 福音朗読

マタイによる福音 28・1~10

……さて、安息日が終わって、週の初めの日の明け方に、マグダラのマリアともう一人のマリアが、墓を見に行った。すると大きな地震が起



こった。主の天使が天から降って近寄り……天使は婦人たちに言った。「恐れることはない。十字架につけられたイエスを捜しているのだろうか、言ったとおり、復活なされたのだ。……イエスは言われた。『恐れることはない。行って、わたしの兄弟たちにガラヤに行くように言いなさい。そこでわたしに会うことになる。』



ろうそくには、十字架、ギリシア文字で始めと終わりを意味する A(アルファ)と Ω(オメガ)、年号が記されている

### 説教

『あの方はここにはおられない、かねて言われていたとおり、復活なされたのだ』

主イエスを納めた墓を見に行った二人の女性は、天使の言葉、復活の福音を信じました。そして、「恐れながらも大いに喜び、急いで墓を立ち去り、弟子たちに知らせるために走って行った」のです。女性たちは、一刻も早くこの喜びを分かち合いたいという思いに駆られ、走り出しました。私たちもこの女性のように、大きな喜びに満たされて、復活の福音を知らせたいと思います。